

# 共同礼拝

2024年5月26日(日) 午前10時30分  
午後4時

司式 牧師 高橋和人  
奏楽 河野和雄

前 奏

招 詞 詩 編 51編12～14節

讃 詠 546

主の祈り

聖 書

詩 編 117編1～2節 (旧957)

使徒言行録 8章14～25節 (新228)

祈 禱

使徒信条

讃 美 歌 53

説 教 「フィリポのサマリア伝道」

牧師 姜 徑米

祈 禱

讃 美 歌 269

献 金

頌 栄 544

祝 禱

後 奏

起立が困難な時は着席のまま礼拝します。  
礼拝は前の方から静かに着席しましょう。

## 5月の祈り

復活の主の昇天とペンテコステの聖霊降臨を覚え、今生きるキリストの体としての教会の歩みを確かなものとするができるように。

聖霊に導かれて礼拝が充実されるように。

祈禱会を重んじ、聖書の言葉に導かれる信仰生活となるように。

高齢や体調などにより礼拝に集うことがかなわないでいる兄弟姉妹たちを覚えて。

震災の地の教会と人々を覚えて。戦争と紛争の地に平和がもたらされるように。

## 今日の祈り

教会総会が聖霊に導かれ、教会の主を仰ぎ、御心に適うものとされるように。これまでに与えられている恵みを思い起こし、新たな歩みに向かうことができるように。主の導きと人の知恵と思いを見分け、主に仕えることができるように。

悲しみと重荷を負う人々に主のみ手と慰めが与えられるように。震災の被災地の教会が力づけられるように。戦火が止み、平和がもたらされるように。

「フィリポのサマリア伝道」姜 徑米

使徒言行録 8章14～25節

14節以下の出来事は、エルサレムの教会を代表するペトロとヨハネが、サマリア人たちの教会を訪問し、お互いの一致を確認したということとして理解することができます。

ペトロとヨハネは使徒たちの代表としてサマリア人たちの教会を訪れ、ユダヤ人もサマリア人も、共に主イエス・キリストの救いにあずかっているのだということを確認したのです。

それゆえ、ペトロとヨハネが手を置いて祈ると彼らが聖霊を受けたという出来事は、エルサレムのユダヤ人たちの教会と、フィリポの伝道によって生まれたサマリア人たちの教会との間に、聖霊による一致が与えられたということを意味しているのです。そしてこのことは使徒言行録全体を貫いている大事なテーマでもあります。

主イエス・キリストの教会は、最初エルサレムで、ユダヤ人たちの群れとして生まれました。しかしその群れはユダヤ人という枠を越えて、サマリア人にも、そして異邦人にも広がっていきました。

主イエス・キリストによる救いは、ユダヤ民族にだけではなく、主イエスを信じる信仰として、全ての異邦人たちに広められていったのです。

しかし、そのことは自然にそうなったわけではありません。ユダヤ人は、自分たちこそ神の民であるという思いを捨なければなりません。そして、主イエスへの信仰というただ一つの絆によって全ての異邦人と共に一つの教会に連なる者となるためには、乗り越えなければならない壁がいくつもあったのです。

教会は、聖霊のお働きによってその壁を一つ一つ乗り越えていきました。その記録が使徒言行録です。使徒言行録は、様々な人間的な対立や困難が、聖霊の働きによって乗り越えられていった、その記録であるということもできるのです。

その聖霊は今も私たちに働いていてくださいます。ペトロとヨハネが手を置いて祈ると聖霊が降った、その聖霊が今私たちの上にも降って、私たちに信仰を与え、主イエス・キリストの救いにあずかせ、人間的な様々な違いや対立も、一つのキリストの体として結び合わせて下さっているのです。